

## 移住者による クラウドファンディング活用事例



えひめ移住  
コンサルティング  
板垣 義男

最近、愛媛県の移住者がクラウドファンディング利用による開業準備を進める事例が増えてきている。クラウドファンディングとは、不特定多数の人に対して自らのアイデアを紹介し、ネット経由で資金調達を行い一定額が集まった時点でプロジェクトを実行するという仕組みのことである。群衆(crowd)と資金調達(funding)を組み合わせた造語である。その事例をいくつか紹介したい。

### ふるさと納税を利用したクラウドファンディング

西予市地域おこし協力隊の藤川朋宏氏が目指すのは古民家を改修したCafé&Bar。もともとは大正時代に建てられた古民家を利用した喫茶店であったがオーナーの体調不良により休店状態となっていた。まちのコミュニティスペースであったこの場所を復活させ人と人を繋げられる場所にしたい、との想いで東京での飲食店経験を積んだ藤川氏がクラウドファンディングの利用で2016年4月より資金集めを開始した。その結果、



Café&Barとして改修準備を進める古民家の喫茶店

約4ヶ月の期間で360万ほどの資金調達に成功、2018年の本オープンに向けて準備を進めている。

このプロジェクトはふるさと納税を活用した「ガバメントクラウドファンディング(以下GCF)」によるものである。ふるさと納税とは自治体への寄附金のこと、個人が寄附を行ったとき「寄附金額-20000円」の金額が翌年の住民税等から控除される制度である(控除の上限額は、住民税のおよそ2割程度)。一般的に言われるふるさと納税制度は、その地域の食

材などの「お礼の品」からふるさと納税の寄附先を選び、その後使い道を選択するという仕組みであるが、一方、GCFは使いたい品から寄附先を選び、お礼の品を選択するというものである。

このような地域課題解決のひとつとして、自治体がバックアップするGCFは愛媛県内で他にも例がある。

今治市大三島に地域おこし協力隊として移住した吉井涼氏も現在GCFを活用している。彼は猪を使った「猪骨ラーメン」を開発し、2018年の店舗オープンに向けて準備をしている。この猪骨ラーメンに使用されるお肉や骨は、猪の捕獲・解体を行う「しまなみイノシシ活用隊」が携わっている。大三島での猪による深刻な農業被害の問題に対し、精力的に活動しており、吉井氏は同活用隊の一員として貢献している。つまり猪骨ラーメンは地域貢献の結果により生まれた商品と言える。



## 移住者が盛り上げる大三島



「しまなみイノシシ活用隊」として解体作業にも携わる

大三島地域おこし協力隊の小松洋一氏は、パン屋のない島をパンで元気にしたいという思いから島の特産品である温州みかんを活用した「みかん酵母パン」を開発、2018年4月に、パン屋「まるまど」をオープンすべく準備をしている。協力隊着任とともに始めた『瀬戸内海の大三島で薪窯を作つて、みかん酵母パンを焼く全記録』というブログでパン作りに関わる活動をとこ細かく紹介することにより、徐々にファンを増やしていった。また、テレビや新聞など各メディアでも取りあげられるなど、県内外の認知度は高まり、プロジェクトスタート後1週間を待たずして目標額150万円を達成した。

同じ大三島に2016年春より移住した徳見理絵氏も、島に滞在しながら、開

発や会議、ワークシヨップなどの仕事もできる一棟貸切の宿「オオミシマススペース」のオープンを目指すべくクラウドファンディングを活用している。

パートナーとともに大阪から移住した徳見氏は2人とも大阪のIT企業に所属したまま、リモートワークでWEB関連の仕事の本業としている。彼女達自身のライフスタイルをベースに、田舎での仕事を試せる場をつくりたいという思いでスタートしたこのプロジェクトは、田舎に移り住んでから生業を見つけるのではなく、都会での仕事を継続しながら田舎に移住しリモートワークを行うという考え方によるものである。

## ゲストハウスをDIYしての利活用

道後温泉本館改修費用のクラウドファンディング活用のような、観光をキーワードとした活用事例もある。山内大輔氏が代表を務める合同会社アソビ社は、「古民家ゲストハウス&バー内子晴れ」をオープンさせるために資金調達を進めている。山内氏は内子町地域おこし協力隊として2017年3月まで、移住促進のための空き家調査などをミッションとして活動していたが、これらを通して昔ながらの文化や暮らしとの出会いがこのプロジェクト開始に至った。解体・内装DIYに多くの知人友人が参加することで、プロジェクトが徐々に注目を浴びていった。

このようにクラウドファンディングは田舎での生業づくりを応援するツールとして多くの方に利用されてきている。しかし、一過性でありきたりな企画では資金調達に苦戦を強いられる。都会では実現不可能なその地域ならではのプロジェクトは、出資者の興味をそそり、その後プロジェクトに出資をすることによって共に生業作りに参加する連帯感を味わえる。

今後も移住者独特のヨソ者目線でのクラウドファンディング事例に注目したい。



ご夫婦共に大三島に移住し、リモートワークで仕事をこなす